

12月定例会

会期は12月6日から
12日までの7日間

専決処分の承認

- ▼令和6年度小平町一般会計補正予算(第3号)
 - 569万1千円を追加し、46億468万6千円に。

補正予算

- ▼令和6年度小平町一般会計補正予算(第4号)
 - 1億1千180万2千円を減額し、44億9千288万4千円に。

- ▼令和6年度小平町国民健康保険特別会計事業勘定補正予算(第3号)
 - 210万8千円を追加し、4億6千397万4千円に。

- ▼令和6年度小平町介護保険特別会計保険事業勘定補正予算(第3号)
 - 3万6千円を減額し、3億7千512万6千円に。

- ▼令和6年度小平町介護サービス事業特別会計補正予算(第3号)
 - 1千903万8千円を減額し、2億8千526万3千円に。

- ▼令和6年度小平町水道事業会計補正予算(第2号)
 - 207万9千円を追加し、3億8千896万6千円に。

- ▼令和6年度小平町下水道事業会計補正予算(第3号)
 - 14万3千円を減額し、3億1千309万7千円に。



第4回定例会の一般質問は、12月12日に行われ、1名の議員が質問しました。

- ①有害鳥獣駆除ハンター育成補助について
- ②防災関連情報伝達手段について

瀧川 司



①有害鳥獣駆除に対し猟友会の高齢化やヒグマ駆除への協力の賛否が報道されているが猟友会と連絡を密にしてハンターの育成等に取り組む必要があると思います。

北海道開拓時代からヒグマなど野生鳥獣と対峙してきた中で開拓時代には現在よりある程度の銃火器があったにも関わらず人身事故が数多く記録されています。

有害鳥獣との緩衝地帯や農地への侵入を防ぐためにもハンターの育成、

増員が必要でないでしょうか町長の考えをお伺いします。

②防災関連情報伝達手段における独自のアプリ開発、ICTの提供や貸与を進め、緊急情報はもと

より防災、防犯のために常に情報を発信するとともに町民からの情報提供を受けるためにも相互通信できる機器の活用を図っていくことにより高

齢者の見守りにも繋がり認知症の予防や健康管理にスマートスピーカーを導入する自治体も増えて

います。

気候変動に伴う災害が頻発している現在だからこそ町民の安全・安心な暮らしのために有効な手段となるよう、ご検討を

頂きたくお伺いします。

①有害鳥獣駆除ハンターの育成については町民や

役場職員の中からハンターを目指す人材もいるので現在の補助、助成を

継続していきたい

②防災無線の老朽化によ

る更新を含めた検討が必要となっており、今後はデジタル社会を見据えた新たな情報伝達手段の構築を考えている

町長 関 次 雄

①ハンター育成には公安委員会から銃砲所持の許可の取得が必要となり猟銃所持のための講習会、射撃教習、医師の診断書、

犯歴や病気の経歴書など様々な手続きが必要となる事から必要な情報を町

ホームページなどを通じて周知したい。

助成については有害鳥獣捕獲および警戒活動従事者に対し5万円を交付、

猟銃取得に対しては国の補助金を活用し10万円を助成している。猟銃取得

は趣味としての取得と有害鳥獣駆除との区別が難しい事から今後も同様の助成が適当と考えている。

7年度には国の補助金を活用し箱罾を追加しピンポイントではなく複数箇所での捕獲も試みる予定である。

有害鳥獣駆除は広範囲に生息するヒグマなどを駆除するのですぐに結果は現れないが町としてできる限りの努力をしていく方向である事をご理解頂きたい。

②災害関連情報は現在防災無線や消防広報車、町ホームページで周知しているが防災無線が平成18年に設置され修理のための部品の供給も難しい状況であり、現在も聞き取りづらい箇所があるのも事実です。

防災無線の更新も視野に入れながらも今後は町民の皆様へアプリやタブレット端末などICT機器の導入整備を進める事が必要と考えている。

ICT機器による積極的な情報入手が難しい場合、電話型のIP端末の設置なども視野に入れ情報伝達手段の多様化、多重化に取り組んでいきたい。